

## ① 映像教材事例の概要

現状の家計を知り、次男の就労収入増と支出項目の見直しで、家計再建の目処が立った事例

相談者：69歳女性

家族：次男との二人暮らし

収入：年金受給中 / 月 124,224 円 / 年金担保・月 5,000 円返済後

債務：消費者金融 1 社と姉 13 万円、残高 32 万円

滞納：固定資産税 28 万円、マンション管理費 7 万円、国保 9 千円、ガス代 7 千円

年金担保残：9.3 万円

### 相談内容

- 2年前に最愛の夫を亡くし、40歳次男と同居中。相談者本人の年金と遺族年金を受給中。
- 病気で入院した為、入院にともなう費用の支払い、公共料金の滞納、マンション管理費の滞納があり、どうすればよいか分からない。長年の固定資産税の滞納もあり、とても不安。

### 状況

- 本年3月までは清掃業の仕事に就き月5～7万円の収入があり、何とか生活できていたが、病気の為、4月から5月中旬まで入院し職も失った。担当の医師からは再度働くことは無理と言われている。
- 次男は1年前に対人トラブルで退職し、その後家に引き籠もり気味で就職しても長続きせず、最近では収入がない。
- 長男はいるが嫁家族とともに遠方に住まい、付き合いはほとんど無い。

### 家計表作成

- 相談時家計表を作成し、現状の生活の仕方では5万円強の赤字となることが分かった。本人の就労は難しいが次男の就労については気持ちを確かめつつ、支出を減らすことなどが必要だと共有した。
- 自宅訪問の上、次男には慣らし運転のつもりで就労できる時間帯を確認、相談者にはどこの費目を削減できるか、相談者と次男が大事にしたいこと等を確認しながら家計を成り立たせることを目指した。
- 方策を二人と一緒に相談した。  
家計計画表を作成し、次男の就労収入5万円と滞納生活費や税金の支払い計画を立てた。

家計改善支援には、以下の各種帳票があります。本教材で使用している帳票には下線を引いています。

1. 相談受付・申込票(A票/B票)
2. インテーク・アセスメントシート
3. 相談時家計表
4. 家計計画表、ライフイベント表
5. キャッシュフロー表
6. 家計再生プラン(家計支援計画)
7. 支援経過記録シート
8. 評価シート
9. 貸付あっせん書

## 解決方法

- 次男の就労収入 5 万円での収入増の他、インターネットや墓参りの費用等を減額すると、小遣い等を増額しても家計が成立することが分かり、実行に移した。

## 相談後

- 5 万円強の赤字の数字を見たときは、とても深刻な表情であったが、自宅での面談で次男の就労が期待でき、家計計画表で僅かでも黒字になり、表情が明るくなった。
- 次男の就労により家計改善の目処が見え、滞納生活費の支払い等が終われば、生活も楽になり、貯金ができる可能性もあることから前向きな気持ちになられている。
- 今後医療費がかさむ傾向にあることから、本人の障害者手帳の取得などで病院に同行予定。

## 現在の様子

- 次男の就労に成功するなど、積極的に生活再生に努めている様子にある。

---

## 家計改善支援の効果

1. 現状の生活の実態が見えることで、自分たちで改めるべき点を見出すことができた
  2. 次男の就労による家計再建の目処が見え、精神的な負担が軽減され、前向きになった
  3. 滞納生活費や固定資産税の支払いも計画的にすれば解決することが分かり、不安が解消した
  4. 障害者手帳の取得で医療費の削減ができれば、かなり生活は安定することがわかった
- 

